

令和6年度 学校総合評価

富山県立富山西高等学校

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度の重点目標は昨年度から大きく変更していないが、重点課題については、より成果が現れるように方策を工夫したり、アンケート等による数値から本校の傾向や新たな課題を見いだすことを目的としたりしたものと、昨年度の様子や、学校評価、学校評議員からの意見等を踏まえ、新たに課したものとがある。

昨年度から継続した重点課題の最終的な評価は、A(達成した)が2項目、B(ほぼ達成した)が3項目、C(現状維持)が1項目となった。達成目標を変更したのもあり一概には言えないが、達成度が上昇した課題や、取組に手応えを感じている課題もあり一定の成果は得られたものとする。

今年度新たに設定した重点課題の最終的な評価は、Aが2項目、Bが2項目であった。遅刻の回数や、3年生への進路支援の満足度等においては、重点課題に置いて数値化することで、本校の実情が見える化するとともに、職員の意識の高揚も図れた。よく設定される課題ではあるが、教育活動や生徒指導の成果を確認する際の重要な指標となり得るものであり、継続していきたい。

来年度は、学校評議員からの指摘を鑑み、重点課題そのものと適切な達成目標値の検討を行い、重点項目によっては見直すことも視野に入れていきたい。

学校評議員の方々には学校の状況や取り巻く環境を十分に理解していただいたうえで、より現実的で温かみのあるご意見を頂戴しており大変感謝している。本校の教育活動をより魅力あるものにしていくために、頂いたご指摘やご意見を真摯に受けとめ、改めて学校経営全体を見直し、改善に努めていく所存である。

7 次年度へ向けての課題と方策

次年度に向けての具体的な課題と方策については、各アクションプランに記載されておりである。本校は、近年受検者数の減少という大きな問題を抱えており、より詳細な現状の分析とその対策、魅力ある取組とその発信方法等、検討すべき事項は数多くあるが、一方で、日々目にする課題に対し地道に取り組み、改善を繰り返していくシステムと、教職員の意識が肝要である。大事と細事の両面に目を向けつつ、重点目標、ひいては学校教育目標の達成に向けて、来年度も邁進していきたい。

重点項目	学校生活	
重点課題	規則正しい生活習慣を確立し、社会性を身に付けさせる	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で遅刻が非常に多く、生活・学業に様々な弊害が生じている。 登校しても脳が活性化されておらず、授業に集中できない生徒がいる。 	
達成目標	年間の遅刻回数を減少させる。	「夜 11 時までに就寝」の生徒の割合 「毎朝、朝食を摂って登校」の生徒の割合
	年間平均の 1 日の遅刻人数が 5 人未満 (遅刻の総数が 1000 未満)	「夜 11 時までに就寝」50%以上 「毎朝、朝食を摂って登校」80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会・学年集会など、機会を捉えて生徒に遅刻の弊害について知らせ、個々の生徒の自覚を促す。また、連続して遅刻した生徒については個別に注意喚起を行い、生活習慣の改善に努めるよう指導する。 「取り組み週間」を設定して、普段の生活を見直すよう働きかける。 保健委員会と協力して、楽しい雰囲気で行き届くように工夫する。 保健だより等を通して、生活改善の必要性を説く。 	
達 成 度	1 日平均 3.8 回 (総数 578 回) 遅刻数が 45%減 (2 学期末まで)	「夜 11 時までに就寝」ほぼ達成 (49.7%) 「毎朝、朝食を摂って登校」ほぼ達成 (76.1%)
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 担任、学年から、様々な機会を捉えて遅刻しないよう呼びかけている。 複数回遅刻する生徒がいた場合は、まず学年担当者から朝学習を指示するなど、迅速かつ個別に指導を行っている。 遅刻回数の多い生徒に対しては個別に面接を行い、一定の数を上回る生徒に対しては終業式後に奉仕活動をさせ、反省を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> 10 月 28 日ー11 月 1 日まで取り組み週間を設定して、教室・校舎内に啓蒙ポスターを掲示した。夜 11 時までに就寝、については、「毎日・だいたい」取り組んだ生徒の割合は昨年の 46.3%を上回った。このグループは、翌日の調子もよいと回答している。 朝食についても同様の結果が得られた。「毎日・だいたい」の割合は 94.6%で、昨年の 91.0%を上回った。翌日の体調・授業集中度も良好と回答している。 取り組み後の感想は、概ね肯定的であった。 学校保健委員会で指摘されたように、保護者にも事前に周知し、家庭の協力の下で取り組むようにするとさらに効果が上がるかもしれない。
評価	B	B
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちが活動に自分で関わることが重要である。成長途中である生徒の指導は大変な面があると思うが、力を入れて欲しい。社会に出たら上下関係がするため、目上に対する接し方をしっかり指導していただきたい。 スマートフォンは睡眠障害を引き起こす可能性があるがあるので、就寝前には使用しないように促すとよい。調査実施後の感想を大切にしたい。保護者を対象とした調査もよいかもしれない。会議に出席できない人たちにも情報発信できるとよい。 	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への声かけの工夫など、改善点を探りつつ継続して取り組む。 実施方法・質問項目などを改善し、次年度も同様の計画に取り組む。 	

令和6年度 富山西高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	① 3年間を見通したキャリア教育の推進を図る。 ② 進路実現のための支援の充実を図る。 ③ 読書等によりさまざまな生き方や考え方に触れさせることで、キャリア教育等の推進につなげる。	
現 状	自己の進路についての意識が希薄で、学年が進んでも明確な目標を見つけることができない生徒がいる。そのため、進路実現に向けた具体的な方策を各自で計画し、実施することが難しく、3年次における面接や小論文などの受験指導に多くの時間が費やされてしまっている。	
達成目標	① 1・2年生：キャリアガイダンスによって、自身の進路選択や進路目標が明確になった生徒の割合 1年生 60% 2年生 75% ② 3年生：進路支援に満足した生徒の割合 3年生 75%	③ 「新聞活用講座」が、小論文や面接等進路面での対策として有意義だったと答えた生徒の割合 80%
方 策	① 進路講演会や進路ガイダンスなどを1・2年生で計画的に実施し、進路意識の向上を図り、早期に進路目標を明確にさせる。また、進路目標の実現には、積極的に学習に取り組むことが大切であることを、多様な活動を通して伝えていく。 ② 進路選択が多様であり、生徒ひとりひとりに合った進路支援を計画的に行う。特に、3年生については、学年の担当者を中心に、学校全体で生徒の進路を支援していくことのできる体制を構築していく。 ③ 今年度も、生徒の自主参加による「新聞活用講座」を実施する。富山短期大学や富山国際大学への受験も視野に、「看護・福祉クラス」「現代社会クラス」の2クラスを開設し、月1回のペースで放課後に実施する。生徒が新聞を活用し、看護・福祉の現場や現代社会が抱える課題等について知り、将来の自分の進路に生かすことを目標とする。	
達 成 度	① 1年生 68% 2年生 89% ② 3年生 進路実現のサポート 93% 面談・個別指導の充実 93% 進路情報の提供 91%	③ 「新聞活用講座」が、小論文や面接等進路面での対策として有意義だったと答えた生徒の割合 89%
具体的な取組状況	① 1年生は進路ガイダンスを2回(7月・12月)と企業見学(12月)を実施した。2年生は進路ガイダンスを2回(7月・12月)と進路探訪(企業見学・大学見学)を実施した。進路ガイダンスで「進路目標が明確になった」と回答した生徒の割合が、両学年とも達成目標を上回った。また、「主体的に取り組んだ」と回答した生徒の割合も両学年とも90%を上回った。 ② 3年生に実施した進路支援のアンケートでは、「先生たちは生徒の進路実現のためにサポートしているか」という質問に対して、93%の生徒が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した。他の質問についても高い評価を得ている。また、生徒の感想の中にも多くの感謝の記載があった。 ③ ・参加人数は、看護・福祉クラス延べ40名(2回実施)、現代社会クラス16名(1回実施)、一昨年度の延べ人数51名よりも増加した。(半数は図書委員の参加だが、学年などの協力が大きかった) ・実施後にアンケートを行ったところ、「参加してよかった」と答えた生徒は89%、「参加してまあまあよかった」が11%であった。また、その他のアンケート項目で、視野が広がったが79%、まとめる力や発表する力がついたが46%であり、生徒の反応はおおむね良好であった。	
評価	① A	② A
学校評議員の意見	・進路目標を決めるためには、多様な体験をすることが大切だと思う。企業見学や大学見学、進路ガイダンス等、充実した取り組みを今後も継続してほしい。 ・「新聞活用講座」に参加する人数にかかわらず、一人ひとりに最適なアドバイスをしてほしい。	
次年度に向けての課題	・ガイダンスについては、生徒の取り組み状況やアンケート結果を参考に、3年間を見据えたものを計画し、実施していきたい。 ・進路支援については、生徒のアンケート結果を参考に、できることから改善を進めていきたい。特に、「学習しやすい環境」については満足していない生徒の数がやや多かったため、早急に問題点を明確にしていく。また、学校全体で生徒の進路実現を支援していく体制については継続していく。 ・生徒の進路希望に対応するため、次年度は看護講座、保育・福祉講座、現代社会講座のように、その進路希望を持つ生徒を4月に集めて登録し、それぞれ月1回は実施し、生徒は自分で日頃から新聞記事を集めて持参しまとめと感想文を発表し合う方法も検討し、満足度が上がるようにしていきたい。また、図書委員も参加させて、司会・進行する力、まとめる力、発表する力を育成していきたい。	

令和6年度 富山西高校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会、部活動の生徒を対象にリーダー研修会を実施し、集団の中でのリーダーとしての意識や能力を身に付けさせる。 ・ボランティア活動を通じて自主的、自律的な態度を育てる。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や各部活動において、教員のサポートがなければ活動等がうまく進まないという現状が随所でみられる。 ・各学校行事やボランティア活動に一生懸命に参加する生徒がいる一方で、活動意欲が不十分な生徒も見受けられる。 	
達成目標	リーダー研修を行う回数	ボランティア活動に参加した生徒
	年間6回以上	30%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修会を行うことで生徒が自主的に活動や企画を考え、実行する力を身に付けさせる。 ・ボランティア活動に関わる情報を速やかに生徒に伝え、できる限り多くの生徒が参加できる体制を整える。 	
達成度	リーダー研修会を行った回数	ボランティア活動に参加した生徒
	6回	102名(約28%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修について <ul style="list-style-type: none"> 体育大会に向けての研修(応援リーダー1回、会計責任者1回) 三柏展に向けての研修(計画責任者1回、会計責任者1回) 生徒会誌作成に向けての研修(各クラス文化委員1回) 部活動関係(各部代表者1回) 多くの生徒に対して研修を実施したことで、自主的に行動する生徒が増加したように感じた。今後は内部研修だけでなく、外部講師を招聘するなどの取り組みにより新たな知識や視点の習得に努めさせたい。 ・ボランティア活動に参加した生徒 <ul style="list-style-type: none"> 速星駅周辺美化活動(56名)・積雪時の雪かき(10名) 速星駅への座布団の寄贈(3名)特別養護老人ホーム訪問(3名) 薬物乱用防止キャンペーン活動(16名)あつつ鍋祭り(14名) <p>今年度ボランティア活動に参加した生徒は102名であった。</p>	
評価	B	C
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動に対し、生徒が興味関心をもつような仕掛けを教員が考え、多くの生徒が各活動に参加したいと思う状況を作ることが必要と考える。 	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修について <ul style="list-style-type: none"> 校内の教員による研修に限らず、外部講師を招き、生徒の多くが新たな知識や、広い視野の習得ができる環境づくりを構築する。 ・ボランティア活動について <ul style="list-style-type: none"> 生徒玄関前にボランティアに関する掲示板を設置することで、生徒がボランティア募集情報を自ら収集し、ボランティア活動に参加しやすい状況を作る。 	

重点項目	その他	
重点課題	<p>昨年度回復したコロナ禍以前の活気のある本校PTA活動を維持させ、PTA役員相互の連携を密にしながら本校独自の取り組み方を工夫する。</p> <p>生徒の活動や本校の活動をより多くの保護者や中学生等に知ってもらえるようホームページ等の一層の充実を図る。</p>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会を十分配慮しながらPTA活動を計画しなければならない。またPTA役員となっても会合に一度も出席できない保護者も若干いる。 ・教育・安全情報サービスで、様々な情報は流すものの、行事の内容を詳細に伝えることやビジュアル的に訴えることはできない。 	
達成目標	PTAに関わる会合の実施回数	ホームページの記事等のアップ回数
	12回以上	36回以上（月平均3回）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会や保護者会等を通して、PTAへの理解を深めてもらい、PTA役員会や各行事への参加を働きかける。 ・学校行事やPTAの活躍の記事などを、機会を捉えてホームページに掲載する。 	
達成度	PTAに関わる会合の実施回数	ホームページの記事等のアップ回数
	<p>125%（15回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完全にコロナ禍以前の状態に回復し、予定の会議は全て実施することができた。三柏展の取り組みなど役員の方々の熱意に深く感謝したい。 	<p>50%（18回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アップ回数こそ少なかったが学校の情報や生徒たちの活動成果などタイムリーにわかりやすく発信することができた。
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・活気あるPTA活動を目指し、執行部会や各委員会、役員会を随時開き役員間の連携を保った。 ・ホームページに学校行事の記事など機会を捉えて掲載し、発信することができた。学校行事などの保護者への情報公開につながった。 	
評 価	A	B
学校評議員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・富山西高校はPTAが楽しくかかわる学校のように感じた。 ・次の1、2年生（役員）達が良い学校を作っていくのでPTAの活動の様子をどう伝えていくのが大切である。 ・子ども達にフレンドリーに接することには善し悪しがある。教員はそこも教えてあげてほしい。PTA役員を3年間続けることを促してほしい。 	
次年度に向 けての課題	<p>創立101年目の新たな年度を迎えるに当たり、本校のPTAがこれまで培ってきた各行事に対するとり組み方のノウハウや各行事の目的の明確化をいかに具体的に次世代のPTA組織に伝えていくことができるかが肝要である。より良き方策を検討していきたい。</p>	